

韓国環境部プレスリリース 2020年2月2日付

京畿道と江原道の野生いのししから ASF ウイルス検出 (野生いのしし 139-148 例目)

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do;jsessionid=2ps4rA4tsji4ALGxGeSSwLdq.mehome1?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1225450&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は京畿道(キョンギド)坡州市(パジューシ)津東面(チンドンミョン)、京畿道(キョンギド)漣川郡(ヨンチョングン)新西面(シンソミョン)および旺澄面(ワンジンミョン)、江原道(カンウォンド)華川郡(ファチョングン)華川邑(ファチョンウプ)で発見された野生いのしし死体10個体からASFウイルスが検出されたと2月2日明らかにした。

1月28日坡州市津東面で発見された死体2個体、1月31日華川邑で発見された4個体と2月1日に発見された死体など、合計8個体は、全て環境部捜索チームによって山の斜面で発見された。漣川郡新西面で発見された死体は、1月31日軍部隊で射撃訓練中発見され、旺澄面で発見された死体は、2月1日農業経営者によって耕作地で発見された。

坡州市、漣川郡および華川郡は野生いのししASF標準行動指針により試料を採取して現場消毒と共に死体を処理した。

国立環境科学院は2月2日死体からASFウイルスを検出したことを関係機関に通知した。全国的には野生いのししのASF陽性事例は148件になった。

国立環境科学院生物安全研究チーム長は"今回の死体は全て既存感染地域内で発見された。この地域では感染した死体がさらに出てくる可能性があり、捜索を徹底している"と話した。

以上